

Chopin's Music & Stories by Kayo

ポーランドでショパン全曲演奏会シリーズを実現した西水佳代のショパンアルバム集。それぞれのアルバムはショパンの音楽と生涯に近づけるようテーマに分けられ、CDアルバムに収録された作品についての解説や作曲当時の心境や歴史的な状況をショパンの残した手紙などを通してウェブサイトでわかりやすく紹介します。

(www.kayo-nishimizu.info)

西水佳代

兵庫県伊丹市生まれのピアニスト。1987年よりポーランド在住。

2004年から8年にわたり「フリデリク・ショパン全曲演奏」コンサートシリーズを実現、16回の演奏会で233曲を演奏。演奏会は毎年ショパンの誕生日(3月1日)と命日(10月17日)にポーランドワルシャワ郊外のプルシュクフ市にあるマゾフシェ古代冶金博物館のコンサートホールで開かれた。2004年～2009年の6年間に12回の演奏会でピアノソロの全曲を、2010年～2011年にはピアノ協奏曲2曲、演奏機会の少ないオーケストラ伴奏の作品、室内楽曲および歌曲を演奏した。

2005年からはショパンがパリで息を引き取った時刻である夜中の2時に追悼演奏会も行っている。

2005年にはプルシュクフ市における文化活動、とりわけ「フリデリク・ショパン全曲演奏」コンサートシリーズを評価され、プルシュクフ市長賞「ウルプス・ノーヴァ」を文化部門で受賞。

2010年からは毎年小中学生を対象にクラシック音楽に親しめるようスライドショーを交えてのトークコンサートも各地で開催している。

ショパンのほかににとりわけ好きなのはロシア音楽。2003年にはムソルグスキー「展覧会の絵」とプロコフィエフ「ロメオとジュリエット」を収録したCDをリリース。チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番は1991

年に大阪センチュリー交響楽団と共演して以来の十八番。

現在「Chopin's music & stories」アルバム集制作中。シリーズの第1巻「ポーランドー愛と悲哀」は2012年11月に、第2巻「24の前奏曲ーイマジネーションの世界」は2013年4月に、第3巻「踊りー遊びと偲び」は2013年9月に、第4巻「音のファンタジー」は2014年4月に完成。同年9月リリースの「なぜ日本人はそんなにショパンが好きなのですか？」は日本人に人気のあるショパンの名曲10曲が収録され、「Chopin's music & stories」シリーズ作成に至るアーティストの考察やショパンの魅力に触れる入門編。最新版第5巻「24の練習曲集ーショパンの哲学」は2015年4月に完成。現在も次のアルバム録音に向けて準備中。

ショパン全曲演奏やポーランド生活を通しての独自のショパン観はポーランドでも注目されている。

西水佳代は演奏活動以外にもピアノ・日本語教師、ポーランド語通訳、4児の母として地域社会の文化振興交流を図る様々なコンサートやイベントの企画を積極的に手がけている。ポーランド国営放送 TVP、TBS、MBS、BS日本、CNN などテレビ出演も多数。

2011年には震災後いち早くチャリティーコンサートを企画し、4月2日にワルシャワ・ワジェンキ公園で「千羽鶴コンサート」を開催。9時から18時までのマラソンコンサートには鈴木メソードやポーランドの音楽学校、大学の生徒や学生、プロの音楽家までポーランド人・日本人合わせて有志100名以上が出演。来場者は2500人を超し、寄付金24,000ズウォティ（約72万円）はその日のうちに日本大使館を通して全額日本赤十字に託された。（www.polskadlajaponii.pl）

www.kayo-nishimizu.info

<https://www.facebook.com/kayo.nishimizu/>

⑩「なぜ日本人はそんなにショパンが好きなのですか？」

ポーランド在住28年のピアニスト西水佳代の„Chopin’s music & stories by Kayo” アルバムの入門編。 ショパンに魅了され本場ポーランドでショパン全曲演奏会も実現した彼女の長年の経験からアルバム作成に至るまでの考察を紹介する。



フリデリク・ショパン：

舟唄

夜想曲第2番

バラード第1番

華麗なる大円舞曲第1番

幻想即興曲

スケルツォ第2番

練習曲作品10 第3番 “別れの曲”

前奏曲作品28 第7番

練習曲作品10 第12番 “革命のエチュード”

葬送行進曲

英雄ポロネーズ

① ポーランド-愛と悲哀

四半世紀をポーランドで過ごしたピアニスト西水佳代が自らのピアノの演奏とお話で託すショパンアルバム集„Chopin’ s music & stories by Kayo ” 第1弾。このアルバムにはショパンの創作の根底に流れるポーランドへの愛と悲哀のあふれる作品が抜粋されています。



フリデリク・ショパン：

3つのマズルカ 作品68－1，2，3

スケルツォ第1番 ロ短調 作品20

革命のエチュード ハ短調 作品10－12

ワルツ第3番 イ短調 作品34－2 「華麗なる大円舞曲」

バラード第1番 ト短調 作品23

ポロネーズ第5番 嬰へ短調 作品44

マズルカ（絶筆）へ短調 作品68－4

② 24の前奏曲 - イマジネーションの世界

„Chopin’ s music & stories by Kayo ” 第2弾。このアルバムにはピアノをこよなく愛したショパンが音の絵の具で描いたさまざまな絵画の世界が広がります。24全調で書かれた前奏曲はそれぞれ短い中にショパンのエッセンスが凝縮されたような個性あふれる作品ですが、全体の調和が保たれ24曲一気に聴き入ってしまう魅力的な曲集です。



フリデリク・ショパン：24の前奏曲集 作品28

③ „踊り-遊びと偲び”

ショパンの全作品のうち半数近い100曲が踊りの曲です。その重要性に注目すると冗談好きで明るいフリデリクと故国への張り裂けるような思いを抱えるショパンの二面性がこれら舞踊曲集に浮かんできます。



フリデリク・ショパン：

アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 作品 22

ポロネーズ ト短調

3つのエコセーズ

4つのマズルカ作品 7

華麗なる円舞曲 作品 34-1

タランテラ 変イ長調 作品 43

3つのマズルカ 作品 63

2つのワルツ 作品 64 より（第1番 子犬のワルツ 変ニ長調・第2番 嬰ハ短調）

英雄ポロネーズ 変イ長調 作品 53

④ 音のファンタジー

ショパンの音楽の幻想をテーマにした西水佳代の最新アルバム。幼少時から並ならぬ即興の才能を発揮したショパンは即興から変奏やロンドの形式に発展させた作品を多数作曲し、やがて自らファンタジーの世界への迷い込んでいきます。西水佳代とともにショパンの楽譜にちりばめられた宝物を探しに行きませんか？



フレデリク・ショパン：

幻想即興曲

ノクターン第3番

華麗なる変奏曲

ロンド変ホ長調

幻想曲

子守唄

幻想ポロネーズ

⑤ 24の練習曲集—ショパンの哲学

このアルバムでは教育者としてのショパンの音楽の見方を紹介しています。この練習曲集はピアニストに必要な技術習得の鍵であり、それは人生にもつながる哲学でもあります。それぞれのテクニックはショパンの手にかかる魔法にかけられたように高度な芸術作品に仕上がっています。



フリデリク・ショパン：

12の練習曲集 作品10

12の練習曲集 作品25

＊ ＊ 以下、仮題。制作準備中 ＊ ＊

6. ソナタ — ショパンにとっての形式
7. チェロとショパン
8. ワルシャワ・告別コンサート
9. 留学後の挫折 ウィーン～パリ
10. パリ・デビューコンサート
11. 異国での孤独感と希望
12. パリ・社交界寵児
13. 作曲活動充実期
14. サンドとの不協和音～決別～病状悪化
15. 幼少～青年期
16. 歌曲集